

会 議 録 (案)

会議の名称	西東京市史跡公園整備構想懇談会 (第 3 回)
開催日時	平成 1 6 年 1 0 月 1 2 日 (火) 午後 1 時 3 0 分から午後 4 時 0 0 分まで
開催場所	東伏見市民集会所
出席者	(委員) 都築 (恵) 委員、近辻委員、斎藤委員、山田委員、小林委員 (事務局) 宮寺課長、寺畑専門員、安達主事 (コンサルタント) 高屋、安藤 (傍聴者) 7 名
議 題	現地視察及び会議
会議資料	(添付資料参照) <ul style="list-style-type: none"> ● 西東京市史跡公園整備構想懇談会第 3 回会議の開催について (通知) ● 史跡公園整備構想懇談会 第 3 回会議 次第 ● 史跡公園整備懇談会第 2 回会議録 ● 縄文遺跡の公園をつくります (地元住民への P R ちらし) ● 西東京市史跡公園づくりに向けたご意見・ご提案等 (傍聴者のメモ用) ● 第 3 回「史跡公園整備構想懇談会」に向け事前にご検討いただきたいこと ● 参考資料 1 : 第 1 ・ 2 回懇談会で討議された内容 (主なもの) ● 参考資料 2 : 第 1 ・ 2 回懇談会での各委員の意見 (主なもの) ● 参考資料 3 : 史跡公園整備に関する各委員の考え方など ● 史跡公園事例一覧及び近隣区市の史跡公園事例 ● 東早淵遺跡 (第三次調査) (都築委員長より) ● 第 3 回史跡公園整備懇談会資料 (公園緑地課 山田委員より) ● 下野谷遺跡検出遺構位置図 (寺畑専門員より)
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

<p>1. 現地視察</p> <p>2. 懇談会</p> <p>(1) 開会・資料及び傍聴者の確認</p> <p>(2) 第 2 回会議録の承認</p> <p>(3) 地域の状況等について</p> <p>(4) 史跡公園の事例紹介</p> <p>(5) 「市民や地域にとってのあるべき姿」を考える</p> <p>(6) 傍聴者からの意見</p> <p>(7)</p> <p>次回までの検討課題・閉会</p> <p>発言要旨は以下のとおり</p>
--

現地視察

出席者全員で公園計画予定地を視察し、寺畑専門員より遺跡の概要について説明を受ける。

開会・資料及び傍聴者の確認

都築 (恵) 座長 :

これより第 3 回懇談会を開催する。本日の懇談会では事例紹介や傍聴者からもご意見等をうかがいたいので、全体の進行は事務局・コンサルタントにお願いしたいがよろしいか。

委員全員 :

- 異議なし -

コンサルタント (高屋) :

事前送付及び当日配布資料の確認と会議の最後に傍聴者の発言時間を設けてある旨を説明する。

第2回会議録の承認

コンサルタント（高屋）：

事前に送付してある第2回会議録に関し、各委員から訂正等の指摘がなかったためこれで承認したいがよろしいか。

委員全員：

- 異議なし -

地域の状況等について

山田委員より地域の状況等について、以下3点についての説明を受ける。

1. 計画地周辺の公園・広場の整備状況
2. 公園を整備する際に近隣から寄せられる主な意見
3. 計画地周辺の地域特性（「みどり」の視点から）

史跡公園の事例紹介

都築（恵）座長より、以下4つの史跡公園事例についての説明を受ける。

1. 小山台遺跡公園（東久留米市）
2. 下里本邑遺跡公園（東久留米市）
3. 早宮史跡公園（練馬区） - 遺跡名：東早淵遺跡
4. 池淵史跡公園（練馬区）

「市民や地域にとってのあるべき姿」を考える

コンサルタント（高屋）：

次の議題である「市民や地域にとってのあるべき姿」を考えるに移りたいが、その進行は座長にお願いしたい。

都築（恵）座長：

事前配布資料の「第3回史跡公園整備構想懇談会に向け事前にご検討いただきたいこと」を参照して、地域や近隣の方に日常的に利用してもらうための計画地のあり方について検討します。検討のポイントとして、いつ、誰に、どのように使って欲しいかを考え、そのためにどのようなスペース、施設、仕掛けが必要かを話し合いたいと思います。

近辻副座長：

山田委員以外は公園の専門家ではないし、また利用者でもない。私としては、こうしろ、ああしろなどという意見はないが、座長から説明があった事例のように、草が生えているほうが利用してもらえるのではないかと思う。現在の雑木林は撤去し、草のあるひろばにすることにより人が集まってイベント等で使ってもらえればよいと思う。遺跡公園としての味付けは1～5%位でよいのではないか。細かいところは制約をつけずに、フェンスも最低限、南側住宅地との間ぐらいにし、東西と北側の3方はオープンにしたい。将来的に、東西の土地も取得してほしいと希望

していることもある。南側はフェンスの代わりに植栽という手もあると思う。

都築（恵）座長：

東早淵遺跡（早宮史跡公園）は、まず試掘し、住居跡の中で状況のよいものを発掘調査し、それを住居跡として整備した。住居跡は木の骨組みのみである。

ここで、近隣区市の事例を数多くみられている斎藤委員から意見をいただきたい。

斎藤委員：

草原（くさはら）の公園をイメージしている。早宮史跡公園も当初は芝だったが、手入れが大変で植木に変更したという経緯がある。私は草（芝ではない）について、たたみと同じようなイメージを持っている。事例で紹介された早宮史跡公園と小山台遺跡公園の間くらいがよいのではいか。財政上、管理の問題もあるので、建造物はないほうがよいと思う。

都築（恵）座長：

多摩センターにある「縄文の村」は、縄文初期、中期、後期の住居を各1軒復元している。ここにも縄文時代の景観を残したい。

近辻副座長：

教育施設というより、一般の公園がよいと思う。下野谷遺跡の第2次調査のところを掘り返し、住居跡を発掘したらどうだろうか。

斎藤委員：

公園の説明板（版）をもっと充実させて欲しい。建物を残すのは難しいと思う。公園をつくと若者がたむろするなどの問題は必ず起こる。他の公園では説明板（版）が焼かれた、トイレが壊されたなどの問題が発生している。

近辻副座長：

公園は市の施設のため、夜間もオープンにする必要があるだろう。そうすると、（人が集まるのを）排除することは出来ないのではないかと。開園してみなければ実際どうなるかはわからないが、（子どもたちが）大人になるための通過儀礼として近隣の方々には多少我慢していただきたいと思う。

都築（恵）座長：

前回視察した「下宅部はっけんのもり」は、子どもの総合学習の場として利用されていた。ボランティアの活動によるところが大きいと、公園管理も地域住民が担っていた。このように、皆で守っていくのが地域の公園であると思う。

小山台遺跡公園や下里本邑遺跡公園は原っぱで寝そべったり、子どもたちが野球の練習をしたりして利用されている。早宮史跡公園や池淵史跡公園では木の実が拾える。

縄文文化を体験できるスペースがあり、縄文時代の木の実が拾えるなどの材料が提供できるとよい。

小林委員：

教育委員会の立場として、特に「子どもたちに縄文時代の生活や環境を体験させられる公園」や「下野谷遺跡をイメージできる公園」などがキーワードであると考え（「第3回史跡公園整備構想懇談会に向け事前にご検討いただきたいこと」より）。東伏見小学校の郷土資料室で春と夏に出土品を公開したりしたが、内容に変化が乏しくマンネリで、リピーターが少なかった。この反省をもとに、今後、公園づくりをきっかけとし、4,000年前から人々が暮らしていたことを実感

できるように子どもたちと一体になって進めていきたい。

イメージとしては「縄文人との対話」とでもいうのだろうか。子どもが楽しめるストーリーづくりから始めるのが面白いのではないか。社会教育課の積極的な取り組みとして、発掘ニュースの発行、出前講座、子ども向け冊子やビデオの作成なども行っていきたいと思う。来年度予定している試掘の際には市民参加の機会を提供していきたい。

都築（恵）座長：

子どもだけでなく大人も興味があると思うので、試掘の体験参加はいい機会だと思う。

近辻副座長：

1970年代の試掘調査に参加した中学生をはじめ、畑で土器を拾った人も多いはずである。「本物を見る、本物に触る」というのが原点だと思う。今日から始まる道路への配管のための試掘調査にはスケジュール的にも無理だろう。

都築（恵）座長：

学術調査の時に、市民に参加してもらえばよいのではないか。配管時のような緊急調査では無理である。

事務局：

発掘体験については事務局預かりということで、検討させていただきたい。

近辻副座長：

トイレの件はどうか。

山田委員：

総合的な学習で公園を使用するとなるとトイレは必要だが、必要かどうかを考えるには公園のコンセプトが大事である。街区公園は昔と違い特に制約がないため、トイレはできれば設置したくないが、それも利用状況による。

コンサルタント（高屋）：

近くに公衆トイレがない状況を見ると必要性はあるのではないか。高齢者のジョギング、散歩コースのひとつとして考えると、500mぐらいに1箇所の割合でトイレがあると高齢者には喜ばれる。

近辻副座長：

多い利用者のことをまず考えるべきである。利用者は半径250m以内と考えると、トイレはなくてもいいのではないか。

斎藤委員：

早宮史跡公園は総合的な学習の場としてトイレをつくった。近隣の人がトイレ掃除をやってくれていたが、その人が亡くなられてからそうはいかなくなった。

都築（恵）座長：

利用者のことを考えるとトイレと水は欲しい。下宅部遺跡はっけんのもりではトイレにシャッターが付いていた。

近辻副座長：

田無駅のそばにトイレが新設されたが、今は1日2回掃除しているため、きれいだ。公園の場合、そこまでの頻度で清掃するのは無理だろうが、管理のレベルでイメージも変わる。

都築（恵）座長：

これまでの共通の議論を確認したい。

「A：子どもたちに、縄文時代の生活や環境を体験させられる公園」はイメージとしてあてはまると思う。縄文らしさの復元について、住居跡の復元は管理の問題もあるため、看板だけが復元かは考えなければならない。体験学習で活用できるようにしたい。

「B：下野谷遺跡をイメージできる公園」に関してもイメージはあてはまるが、うまく具現化できるかというところがかなり難しいのではないかと。本格調査に市民に参加してもらうのは大事だと思う。

コンサルタント（高屋）：

「みどり」について確認したい。草っぱらという表現が何度か使われたが、遺跡保護の視点も踏まえたうえで樹木についてはどうか。

近辻副座長：

日差しよけとしても樹木は必要である。

斎藤委員：

ギンナンの木は育ちが早く、実や葉の処理が大変なので困る。シイの木は実も食べられるためいいのではないかと。南側住宅地との境には木が必要である。

都築（恵）座長：

実は拾って使える、葉が落ちないというのは重要である。樹木は必要ということでよろしいか。

委員全員：

- 異議なし -

都築（恵）座長：

「C：誰でも自由に見て、触って、感じられる、身近な体感公園」に関しても、具体化は少し難しいと思う。

「D：たまごから育てていく公園」は公園の活用という意味でも有効である。市でもいろいろな策を考えていただきたい。

「E：みどりを基調としたひろば」はよいと思う。試掘の結果、遺跡のないところに植栽したい。

「F：一般のひろば」の日常的な利用や毎日でも散策できる親しみのある公園は絶対条件である。

「G：その他」の軽食喫茶コーナーや研究施設に関しては、現在までの議論と相反する。

縄文イメージの具現化やバリアフリーの配慮、ボランティアの育成と活用に関しては今後も議論を続けたい。

他に意見はないか。

委員全員

- 特になし -

傍聴者の意見

コンサルタント（高屋）：

傍聴者の皆さんからご意見をいただきたい。

傍聴者 1：

傍聴者 1 :

中町に住んでいる A です。下野谷遺跡とひろばの考え方はいいと思う。石神井川があつての遺跡なので、川とのつながりがあればよりいいイメージになると思う。それから、縄文時代の樹木を植えて欲しい。

傍聴者 2 :

東伏見 6 丁目の B です。公園整備費用はどれくらいなのか。昭和 48 年の第 1 次調査に参加したが、当時の発掘品を見ることができず、どこにあるのかもわからない。出土品を常時展示できる場所が欲しい。試掘に市民が参加できるとともに、早い時期にどこで公開されるのか教えてもらえれば遺跡に対する市民の興味が持続すると思う。

近辻副座長が話されたように、公園が整備されたとしてもランニングコースとしては使用されないと思う。詳しい看板が欲しい。近隣住民のための目隠しも必要だと思う。北側は見晴らしをよくし、昔の人の生活を実感したい。

傍聴者 3 :

東伏見 6 丁目の C です。こちらに引っ越して 7 年目になる。住居との境は低木でよい。落ちた枝や落ち葉の手入れが大変である。このあたりは夜間の人通りがなく、さみしいため、夜間のトイレは防犯上危険である。近所の人と、みどりは残して欲しいが溜まり場になるのは困ると話し合っている。公園が整備され、周りの道路が整備されると駐車違反が増え、粗大ゴミの不法投棄が増える。整備する上で検討していただきたい。

傍聴者 4 :

東伏見 6 丁目の D です。昭和 34 年からここに居住しており、一番近所だと思う。子どもは 3 人とも東伏見小学校を卒業し、発掘にも参加した経験がある。平屋でよいので常設の展示場が欲しい。下野谷遺跡は知名度があると思う。竪穴住居跡を復元するなど、レプリカでもよいので現物を見せるほうがよい。トイレは必要だと思うので夜間は閉館するなどの対策をとるのがいいのではないかと。灯りは防犯上必要である。看板は大きな字で、世界史と対比させるなどしたものをつくって欲しい。

次回までの検討課題・閉会

コンサルタント(高屋):

傍聴者からの意見を聞いて、各委員の感想をうかがいたい。

小林委員:

今後の取り組みを考えたい。

山田委員:

今のところ管理する側が想定していた方向で議論が進んでいる。北側と南側の使い方もあるが、植栽は隣地にあまり近付けないようにしたい。トイレの防犯が今後の課題である。

斎藤委員:

多くの近隣住民の方に出席していただき感謝している。トイレ、植栽に関しては、例えば数年おきに話し合うなどして、今決定する必要はないのではないかとと思う。

近辻副座長:

あの階段の道を通る人がいるというのは驚きだった。石神井川からの階段を上がってきた北側が公園のメインゲートになるというイメージだ。また、この東伏見市民集会所を出土品の常設館

にするというのはどうか。

都築（恵）座長：

近隣住民の方からの貴重なご意見ありがとうございます。みどりを残し、高台を上手く利用したひろばにしたいと思う。竪穴住居はレプリカでも難しいので、次回の検討議題にさせてほしい。

コンサルタント（高屋）：

次回の課題整理をしたい。

今回は突っ込んだ議論は難しかったが、縄文のイメージをどうするか、北側のひろばをどう扱うかなどについて次回話し合いたい。特に、この史跡公園が西東京市の第1号になるため、雛型という意味でも西東京市らしい史跡公園のあり方について検討したい。

近辻副座長：

この地には古来より人が住んでいた、その歴史を伝えていくべきである。ここには、戦争中のトンネル（地下道）があり、保谷市の時に埋め戻されたという経緯がある。どのような工事をしたのか次回までにデータが欲しい。

事務局：

調べて報告したい。

都築（恵）座長：

戦争の取り扱いは非常に難しいので、下野谷遺跡に関しては縄文時代を前面に打ち出したいと思う。

コンサルタント（高屋）：

他に意見がないようであれば、第3回懇談会を閉会する。

（閉会）